

オペラおとわのつばき

Otowa no Tsubaki

# 乙和の椿

プロデューサー  
&  
キャスト



制作プロデューサー  
三浦 尚之



芸術監督・演出  
竹沢 嘉明



指揮  
高橋 裕之



乙和  
大倉 由紀枝



佐藤基治・制作プロデューサー  
高橋 啓三



佐藤 継信  
國分 雅人



佐藤 忠信  
横田 逸朗



若桜  
渡部 史子



楓  
深澤 麻貴子



源義経  
樋口 達哉



武藏坊弁慶  
菅野 宏昭



山伏一  
今尾 滋



山伏二  
佐藤 一成

■作曲  
原 嘉壽子

■原作  
北 篤

■台本  
中村 栄

■制作プロデューサー  
三浦 尚之 福島市音楽文化総合アドバイザー 福島学院大学名誉教授  
高橋 啓三 二期会会員 東京音楽大学名誉教授 日本声楽家協会理事

■美術  
渡邊 晃一 福島大学教授

■衣装/グラフィックデザイン  
加賀田 恭子

■舞台監督  
水谷 翔子 有限会社ニケステージワークス

■照明  
続橋 円 株式会社RKB

■音響  
矢吹 実 株式会社RKB

■副指揮  
高坂 慎一郎 小林 直央

■合唱指揮  
佐藤 一成 深澤 享仁

■演出助手  
佐藤 一成 佐藤 季  
山本 雄太 今泉 翔仁

■メイク  
西山 美由紀

■合唱  
福島オペラ協会合唱団  
福島男声合唱団  
乙和の椿特設合唱団  
桜の聖母学院中学校・高等学校音楽部

■管弦楽  
福島オペラ協会室内オーケストラ

■福古ピアノ  
角田 啓子 神田 由布子  
田中 笑美 八巻 和也

■制作  
深澤 享仁 佐藤 一成 星 弓彦  
佐藤 朱美 仲沼 祐太

平成29年 9月23日(土)

18:30開演(17:30開場)  
福島市音楽堂 大ホール  
〒960-8117 福島県福島市入江町1-1



● チケットぴあ (自動音声案内/Pコード)  
0570-02-9999 Pコード…339-708  
● ローソンチケット  
0570-000-407 Lコード…21457  
(オペレーター 10:00~20:00)  
(音声自動24時間) <http://l-tike.com>

お問合せ 福島市教育委員会文化課  
Tel: 024-525-3785

S 席…(全席指定) 6,000円  
A 席…(全席指定) 5,000円  
B 席…(全席自由) 4,000円  
(学生B席のみ 2,000円)

オペラ「乙和の椿」は平成七年に開催された「ふくしま国体」のスポーツ・芸術部門の中で上演された。その後、幾度となく再演されているが、本公演は福島市音楽堂で、ホールオペラによる新しい演出により、地元ゆかりのキャスト・スタッフを中心に、市民手作りのオペラをコンセプトとして制作されたものである。

■ あらすじ

時は文治元年。大鳥城主佐藤基治は、継信、忠信の二人の息子を源義経の平家討伐の拳兵に参加させることにした。基治は決戦必勝の策を二人に授けるが、一方わが子を戦におくり出す母親乙和の心には、一抹の不安がよぎる。義経の軍は連戦連勝。だが継信は屋島で、忠信は京都堀川の館で、兄弟揃って義経の身代わりになって死に、やがて義経も兄頼朝に追われる身となる。息子たちの正確な消息を知り得ない乙和は、大鳥城居館で悶々の日々を過ごす。すると、ある晩「唯今帰還」と甲冑姿の継信、忠信が現れる。乙和は夢かと驚喜喜ぶが、それは幻だった。二人の妻(若桜、楓)が乙和を慰めようと、夫の帰還を演じてみせたのだった。ある日のこと、山伏一行(実は山伏に変装し、陸奥へと下った義経一行)が大鳥城を訪れる。義経一行はあえて正体を明かさず、問われるままに継信、忠信の最期の様子を語ってきかせた。それを聞き、武士としての本分を全うしたと満足げな基治。悲しみに暮れる二人の妻。乙和はその場を気丈に耐えるが、一行が立ち去った後、泣き崩れるのであった。蟬しぐれの太鳥城に、頼朝三十万の大軍が迫る。老将基治は、勇敢に戦い、そして散っていった二人の息子のためにも、出陣を決意する。文治五年八月八日、石坂にて基治は戦死。この合戦で死んだ人々の血で、川は紅に染まったという。乙和をはじめ女性たちは、基治の計らいで難を逃れたが、大鳥城居館の庭の椿は、以来、蕾のまま落ちてしまい、八百年後の今なお、一度も咲いたことがないという。